



こんにちは、生殖医療部の山口葉子と申します。大学卒業後にミオ・ファティリティ・クリニックで働き始めて2年が経ち、今年4月に胚培養士認定審査を受けさせていただきました。この2年間は日々の業務と並行しながら胚培養士試験の勉強に励み、毎日のあらゆることが学びの連続であった一方、未熟さを痛感しながら自分と向き合い奮闘する日々を過ごしてきました。

そのような日々の中で、昨年は、2年目にして初めて学会に参加させていただきました。私が入社してからの学会はコロナ禍ということで全てオンラインでの開催であったため、現地参加はもちろん、先輩方が発表している姿を見ることも初めてでした。コロナ禍とはいえ多くの方が現地参加され、会場の席が埋まっている中で発表されている先輩方の姿を見て、私も頑張っていかなければとこれまでになく奮い立たせられました。

また、この学会では現地開催とオンデマンド配信の両方であったため、様々な演題を聞くことができ、学びの点においても大きな刺激を受けました。当然ながらまだまだ知らないことがたくさんあることを思い知り、今の自分の知識の少なさを痛感しましたが、それだけでなく、生殖医療は新しい発見と可能性にまだまだ満ちた分野である、そんな感覚を覚えました。学会を通して肌で感じた感覚を大切に、今後の自分の糧にして積極的に学会活動を行っていききたいと思います。

しかし、学会で大きな刺激を受けたものの、日々の業務では悩みが絶えず、特に患者さんの前では先輩方のように堂々とした態度でいられない自分に自信のなさを感じています。日々の業務と胚培養士試験の勉強を積み重ねる中で、知識は徐々に身についてきていると感じていますが、それでもやはり自信を持って患者さんの前に立つことはできません。最近ようやく日常業務にも慣れて時間や気持ちにほんの少し余裕が感じられるようになってきたので、日々の業務や胚培養士の先輩方を通じて様々な知識や技術を吸収していきたいと思っています。

最後に、現在の私は胚培養士としての知識や経験は先輩方には到底及びませんが、その分私には伸び代がたくさんある!そう自分に言い聞かせて日々奮闘しています。より多くの経験を積んで1人1人の患者さんにとって最適な提案、情報の提供ができる胚培養士を目指し、そして1人でも多くの方を妊娠に繋げることができるよう努力していきたいと思っています。

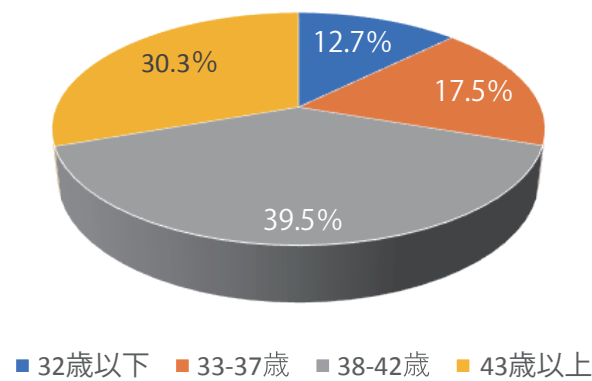
生殖医療部 山口葉子

2021年 ART治療成績

昨年に引き続き世界規模のパンデミック(Covid-19)の影響を強く受けた一年となりました。当院に来られている皆様が治療を安全に受けていただくために、県外からの来院希望の皆様には、到着された時点での抗原検査を必須にさせていただきました。そんな厳しい状況にも関わらず、多くの患者様に来院していただきました。治療数についても、採卵は731周期、凍結融解胚移植も748周期、合計1479周期と非常に多くの治療を行うことができました。

また、2022年4月には、一般不妊治療、生殖補助医療の保険適用が始まり、これまでより早い段階で不妊治療にトライされる方が増え、対象のご夫婦への裾野がさらに広がることが想定されますので、より一層、気を引き締めて医療の質向上に邁進していければと考えております。

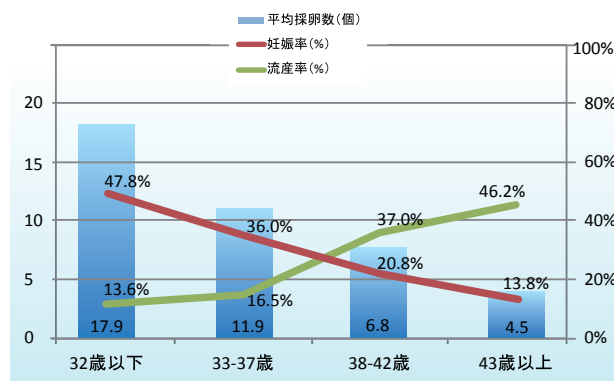
●年齢別ART治療数割合



●治療別症例数と周期数

	IVF	ICSI	IVF/ICSI	TESE	F/T
症例数	207	129	134	13	425
周期数	379	271	178	17	782
胚移植周期数	208	117	39	2	740
臨床妊娠数	16	13	11	0	266
妊娠率(%)	7.7	11.1	28.2	0	35.9
流産率(%)	37.5	38.5	36.4	0	22.9
平均年齢	39.5	40.9	37.9	30.1	36.9

●年齢別の平均採取卵子数と妊娠率



2006~2021年 ART治療実績

治療開始年齢	29歳まで	30-34	35-39	40-44	45歳以上	合計
刺激開始患者数	558	1262	1407	732	87	4046
胚移植実施患者数	511	1208	1372	676	68	3835
妊娠患者数	423	987	953	293	6	2662
患者あたりの妊娠率*1	82.8%	81.7%	69.5%	43.3%	8.8%	69.4%
中途治療中断患者数°	87	184	295	290	54	910
補正妊娠率*2	99.8%	96.4%	88.5%	75.9%	42.9%	91.0%

◎ 中断者の定義: 胚移植回数5回以下の方

*1「患者さんあたりの妊娠率」とは、2006年～2021年にART治療を受けられた全ての患者さんの延べ人数で妊娠率を表しています。

*2「補正妊娠率」とは、治療を途中で中断されず、ずっと継続された方のみの方の数での妊娠率を表しています。

生殖医療看護日誌

新型コロナウイルス感染症が流行し、早くも2年以上の月日が経ちましたが、未だに終わりの見えない日々が続いています。通院されている皆様には、当院での感染対策にご協力を頂き感謝申し上げます。今後も感染対策に取り組み、安心して治療を受けていただける環境を提供していきます。

さて、今年4月から新たに不妊治療が保険適用されました。これにより、治療に取り組みやすくなったご夫婦もあれば、治療における負担が逆になくなったご夫婦等あると思います。私たち看護師は、それぞれのご夫婦が安心して治療に臨めるよう必要な情報提供を行い、様々な規範の中で可能な限りより良い方向を探しながら、ご夫婦の夢を叶えるためのサポートを全力でして参ります。

日々めまぐるしく変わる社会情勢ではありますが、生殖医療に携わる私たちにとって「赤ちゃんが欲しい」と願うご夫婦のために最善を尽くすという軸は一つ変わりません。日々の変化や情報を敏感にキャッチしながら、

通院されている皆様が安心して治療に専念いただけるよう日々努めています。

何か少しでも不安に思われることがありましたらご相談ください。

RU看護部 看護師

渡邊 妙子